

『しまね和牛』雌牛肥育の手引きについて

平成10年度から取り組んできた黒毛和種未経産雌牛肥育体系確立試験の結果に基づき、『しまね和牛』雌牛肥育の手引きを作成しました。

基本的には、平成7年に作成した去勢牛の肥育の手引きに準じていますが、特に注意する点として、飼料採食量の急激な増加は厚脂につながるため、飼料の増加は緩やかに行うこと、食い止まりをさせないために、前期に粗飼料を3.5kg/日以上採食させること、血中ビタミンAのコントロールは去勢牛と同じで、17ヶ月齢で50IU/dlにすること等があげられます。

今回作成した「雌肥育牛の採食量および増体のめやす」は、添付資料のとおりです。

また、血中ビタミンAのコントロールについては、基本的な注意事項(後述)としてまとめ、手引きに掲載していますので、併せて紹介します。

なお、手引きは当場に若干の余部がありますので、必要な場合は申しつけください。

肥育牛におけるビタミンAに関する一般的な注意事項

ポイント1 肥育とビタミンAとの関係

- ・ビタミンAは、明らかに増体、肉質に影響を及ぼしています。
- ・血中ビタミンA濃度が高値だと肉質に悪影響を及ぼしますが、低値に維持すれば良いということではありません。
- ・肥育期間中、いかにうまくコントロールしつつ、飼料を食べさせるかが重要です。
- ・体内におけるビタミンAの消費量は、若齢牛、増体量(DG)が多い牛、広い牛房での飼育牛、夏期、ストレスを受けた牛などで多くなる傾向が認められています。

ポイント2 ビタミンA欠乏による臨床症状

- ・盲目：血中ビタミンA濃度の極度の低下(10IU/dl以下)で発生します。
なんの前触れもなく、突然症状が現れます。
発症牛にビタミンA製剤を投与しても回復はしません。
- ・採食量低下、増体停滞(もしくは体重減少)：30IU/dl以下で発生します。
ビタミンAの投与で回復します。
- ・腫脹：膝および飛節周辺が腫れてきます。
1万IU以上のビタミンA製剤投与で症状が緩解させることができます。
- ・その他の症状：毛艶消失、鼻鏡剥離、元気消失、筋肉水腫(ズル)等

ポイント3 ビタミンAの給与方法(下図参照)

肥育素牛の血中ビタミンA濃度は、前の管理者の飼養条件などの影響を受けて、様々なまちまちであるので、導入時100万IUを経口投与するのが良いでしょう。

生後17ヶ月齢をめどに、血中ビタミンA濃度がコントロール域に入るよう、ビタミンAを比較的多く含むような飼料の給与を制限していきます。ただし、採食量低下や腫脹が見られはじめたら、適宜ビタミンAを補給する必要があります(1回に30万IU以下)。

